

ほとほとに

えねるぎっしゅ

Vol. **29**
2008.7.25

平成20年度定期総会報告

今年度総会は、会員117名のうち出席者81名（委任状含む）により開会。総会后に柏木孝夫氏より記念講演がありました。

総会は、平成19年度事業報告及び決算報告、平成20年度事業計画案、予算案などを審議・承認。

理事改選では、NPO 法人創設以来理事を続けてくださった川西さん・溝辺さんが退任され、秋庭・中野・清水・山口が再任。理事長に引き続き秋庭さんが選出されました。

平成19年度事業は、トークサロンを青森、福岡、東京の3箇所で開催。オピニオンリーダー養成講座を4日間にわたり行い、「雑の会」「函館の環境を考える会」の学習会を支援。

恒例の「ネットワーク活動報告・交流会」には全国から13グループの参加がありました。

平成20年5月16日 都市センターホテルにて

19年度の新しい事業としては、料理と組み合わせた楽しい“エネルギー&クッキング”、資源エネルギー庁のNPO支援事業として実施した高レベル放射性廃棄物勉強会や原子力発電環境整備機構（NUMO）受託事業としてワークショップを瑞浪市・東京の2回行い、関東経済産業局と埼玉県地球温暖化防止活動推進センターと共催したエネルギーセミナーを行いました。

また、18年度の原子力用語認知度調査を受け、小冊子「高レベル放射性廃棄物について考えてみました。」を作成、ニュースレターやホームページの新規作成を行いました。

20年度は、前年度と同様の事業を予定し、ニュースレターやホームページなどを通じ情報発信を続けます。

記念講演「新エネルギーへの期待と課題」 講師 国立大学法人東京工業大学教授 柏木孝夫氏



プロフィール

2007年から東京工業大学統合研究院教授。
1995年IPCC第2次作業部会代表執筆者。経済産業省総合資源エネルギー調査新エネルギー部会長など要職多数。

講演を聴いて あすかI初* -フォーラム 金多妙子

柏木先生の講演の素晴らしい説得力と、それこそ「エネルギー」に満ち溢れたお話ぶりに、参加者は圧倒された感があった。まず今回の洞爺湖サミットでのCO2などの温室効果ガスの削減策の日本の主導権のとり方を皮切りに、世界各国は国益をかけて本格的なエネルギー戦略に乗り出しており低炭素社会でのエネルギーをどう確保するか、また同時に京都議定書の課題である、公平性を保ちながらいいルールをつくることにも懸命になっているということ具体的に話された。（さて、サミットの結果は如何に・・・。）この中で、日本としても今後とくに、地球環境問題はエネルギー問題と一体化として考えざるを得ないということだった。

これに関して、電力については、まず原子力、そして石炭・天然ガスなどをベースに加えて風力・太陽光・バイオマスなど再生可能な新エネルギーのいっそうの普及が課題であり、一方では、新エネルギーについては「グリーン電力の使用」の義務づけなど、政府の後押しは欠かせないということであった。

こうして今後目指す低炭素社会への道は省エネルギーのみならず、原子力、そして新エネルギーが不可欠であると結ばれた。

会場は柏木先生の迫力ある講演に釘づけとなり、参加者からは、自らが率先して周りの人たちや子供たちに、このことを伝えていきたいという意気込みのある意見や感想が多くあり、全員の熱のこもった拍手で締めくくられた。



柏木氏
講演風景

講演を聴いて

かつては「黒いダイヤ」と言われ日本でもエネルギーの主役を担ってきた石炭。近年石油の陰に隠れてしまったかに見えていたが、先生の講演から資源獲得競争上にある古くて新しい石炭の姿が見えてきた。

この10年、アジアにおけるエネルギー消費は経済発展と共に伸び続け、中でも石炭の消費は著しく、特に中国、インドは自給率の高さもあり2030年までには2倍から3倍の伸びが予想されるとの事。アジアにとって特に重要な石炭は埋蔵量、価格の安さなど安定供給が可能な為今後とも発電用、製鉄など利用が拡大するという。

問題は環境負荷が大きいことで温暖化の原因とされるCO2の大量発生、大気汚染物質、煤塵の発生など問題が多く、取り組みとしてはCCT(クリーン・コール・テクノロジー)の開発が重要との事。

気になるのが石炭利用国日本の対応だが、石炭ガス化複合発電など最先端に行く高い技術力でCCTの開発普及に取り組んでおり、国内ではすでに解決済みなので今後は途上国への技術協力や普及活動が大きな課題と話された。



埋蔵量も豊富、安定供給優等生の石炭もここにきて価格高騰していると言う。

めまぐるしく変わる国際情勢、供給国のインフラ整備の問題、アジアの消費量の増大が世界の消費拡大を引っ張って需給のバランスなども見極めるのが難しくなっていると言う。石炭から世界が展望できる大変意義のある講演を頂きこれからは石炭に関する情報に関心の目をむけていきたい。

あすかエネルギーフォーラム 渡辺信子

エ ネ ル ギ ー ネットワークを

函館市・函館の環境を考える会 山本正子
洞爺湖サミットの時期に、柏木先生の講義を受ける機会に恵まれたことは本当に幸せでした。

函館市・函館の環境を考える会 安藤真理
地球環境問題はエネルギーと一体化して取り組まなければならないことを学びました。

青森市・フリータイム 清藤須磨子
全国に友人を作り情報交換をしながら、今の自分のできる範囲一緒に勉強していきたいと思えます。

青森市・珈-クラブ あおもりサロン 山崎世里子
石炭の話は初めてなので、目からうろこ状態でした。他県の方々とお話するのが良かったです。

弘前市・弘前珈-クラブ 遥 白濱允子
私が子どもの頃あった石炭ストーブ。家庭から消えた石炭の重要な位置を知りました。

六ヶ所村・六ヶ所村読書愛好会 伊藤夏子
オール電化商品の中で、一番興味深く見学したのは、室内の空気を利用して電気に変えた温水器。

六ヶ所村・六ヶ所村読書愛好会 菊地としえ
地球温暖化を勉強し大人より危機感を持っている孫に、柏木先生の資料を送ることにしました。

青森県大間町・はまなすくらぶ 山崎アイ子
知識を得ることによって時代を正しく知り、子や孫に受け継いでいく事も親の責務だと感じました。

柏崎市・柏桃の輪 関口美智子
「地球益」という言葉に感心した。国益をかけたエネルギー戦略を展開している事に興味を覚えた。

御前崎市・雛の会 赤澤朋子
オール電化は初めて体験。最初に購入するなら生ごみ処理機。御前崎市でゴミの分別が厳しくなった。

岐阜市・エネコウイング 花井泰子
普段は伺うことができない講師の方から、最前線のお話を伺い、東京まで来た甲斐がありました。

相模原市・あすかEレギ-フォーラム 柴田文子
あすかエネルギーフォーラムの学習会は、質問時間が足りません。発言力をつけるためにも質問しましょう。

白山市・石川エネの会 中野許子
講師資料を読んで確認し、苦手な数値をきちんと頭に入れ、多くの人に紹介できるようにしたい。

小松市・あすかEレギ-フォーラム 金多妙子
リアルタイムの国の中枢に近いお話を伺って、自ら発信していかなければ意味がないとも痛感。

松山市・えひめエネルギーの会 濱崎みち彥
「地球を守れ、それにはお金がかかる」大変な時代になったものだと思います。

全 国 に 拡 げ よ う



プロフィール
資源エネルギー庁「燃料電池実用研究会」委員、バイオマスニッポン総合戦略ワーキンググループ委員など数多くの国や地方自治体の委員等を務める。

講演を聴いて

観光地で有名な函館の鮭屋は地元で獲れた魚は20%のみ、朝市では90%の輸入魚が販売されている。また世界の金余りが「食糧・エネルギー」のファンドに投資され値上りを続けている等、多角的な話から私たちを引き付けて始まった。

現在第1次世代のバイオマスは問題に突き当たっている。ドライバイオマスは難しく（生木を乾かすのにエネルギーが必要）、タービンを利用するものは故障し易く、下水からメタンを発酵するものは発酵するまでにエネルギーを使いすぎる等がある。今後の日本のバイオマスはドイツで開発進むバイオマスツーリキット（BTL）の方向で開発が必要である。

日本で来年発売されるディーゼル車は軽油の99%のNoxが排除されるので、日本の車の3割を占めれば京都議定書目標値は達成できる。また来年からは電気自動車の量産時代を向かえ、一般家庭で昼は太陽光・夜は深夜電力で自動車に蓄電。車だけでなく家庭でも利用できる時代になる。企業ではバイオマス発電した電気を電力会社に売るのではなく、社用車に利用した方がはるかに得。今後電気自動車の開発は大きくエネルギーのあり方を変えるだろう、と話された。

最後に「プロジェクトを成功させるには、理解力の有るトップと3人のプレーンが、いかに多くの人の心に火をつけられるかによって決まる」という講師の言葉は、バイオマス発電に取り組んでいる白川町の方やトークサロンに参加されて方のやる気の心に、さらに火をつけたお話になったと強く感じた。

あすかエネルギーフォーラム 柴田文子

テーブルトーク 「新エネルギーの可能性とまちづくり」 私たちにできること

活発な意見 and 白川町応援

白川町長から町づくりへの熱い思いなどを伺った後、町役場職員、町民会館長など地元の方々もテーブルトークに参加。エネコウィングやあすかのメンバーと一緒に、59人が地元の実情を交えた素晴らしい話し合いをしました。まとめて紹介します。

講演会の感想

- ・講師が講演の最後に紹介された教師3像、「ただしゃべる人」「やって見せる人」「人の心に灯をつける人」。このことばが一番印象的。
- ・講演に町長さん・議員さん・町役場の方も参加され、「まちづくり」への思いの強さが伝わった。
- ・「ブランディング」＝地域の人が当たり前になっているものを発掘して、物語を持って発信することの必要性を感じた。
- ・電気自動車は『将来、家庭に置かれる大容量の蓄電池』という発想は驚いた。

周りの人に伝えたい

- ・山にもっと興味と関心を持って欲しい
- ・バイオマスの研究の話
- ・若い人の職業として、家づくりがコンピューター設計、加工とシステム化していること
- ・環境における価値として山を見よう

テーブルトークで出た提案

- ① 国家資格「森林バイオマス主任」
- ② 「森林税」を払って支援
- ③ 白川町木材の「ネット販売」
- ④ 「1坪山持ち」
- ⑤ 「結婚式の記念樹・銀婚式には20年物」
- ⑥ 「大学生向け、就職に有利な森林管理のボランティア」

私にできること・したいこと

- ☆地産地消を心がける。☆国産の木の物を使う。
- ☆里山のイベントなどに参加する。
- ☆家を建て替えるときは、良質の国産材を沢山使い、耐震性の強い200年長持ちする家を作りたい。
- ☆バイオマス発電に注目。

テーブルごとに意見発表



東濃ひのきとバイオマス発電視察

2008. 6.14 岐阜県加茂郡白川町にて

森林から木材の加工・出荷、廃棄物による発電までを見学

パワフルな Ene☆Eco Wing の皆さんの気配りに感謝します（飯塚）。 水源の里として共存共栄していくためのご苦勞を知りました（清水）。 製材所の中国人研修生に「森の発電所」を中国に持ち帰って欲しいです（尾関）。

木質バイオマス発電『森の発電所』視察

東濃ひのき製品流通協同組合 参事 渡邊信吾氏に案内していただきました。木材の廃棄部分を燃料に出力 600kw。

8-9割が自己消費。余剰を売電。ソニー工場とグリーン電力証書の契約ができ、町長も喜んでいました。



コテージ村 ⇨

「ヴィラ・クオーレ」趣が異なる木造コテージ 13 棟。自然の懐で、全国の仲間と深夜まで交流しました。



⇩ マイ箸づくり

（森林センターにて）

間伐材のひのきを、2種類の紙ヤスリで削って作ります。ひのきの香りが充満して、癒し効果もありました。

行列のできるエネルギー講座～電気の旅立ちから終着駅まで～

2008年6月3日

札幌・北海道経済センターにて



Ene Femail21 と共催。会場前から参加者が続々。200 席は定刻に埋まり、最後まで満席で熱心に楽しく過ごしました。

第 1 部は、弁護士の住田裕子氏の講演「知って得するエネルギー相談所」。出演されるテレビ番組の裏話やご自身のダイエットの話から温暖化の話へ。エネルギーや環境について日本の現状・世界の変化まで視野が広がりました。

住田弁護士のお話の後の第 2 部は、エネフェイメール 21 のメンバーによる「エネルギー&環境クイズ」。参加者は楽しく回答しました。

第 3 部はパネルディスカッション「電気の旅立ちから終着駅まで」。コーディネーターはフリーアナウンサーの橋本登代子さん、パネリストは原子力の専門家・北海道大学教授佐藤正和氏と消費者から消費生活アドバイザー山口博美さん。

佐藤氏は「エネルギー源の長所短所を踏まえ上で多様な選択肢を維持することが大切。カードの一つとして原子力は欠かせない」と熱弁。

原子力サイクルの最終駅とは、使用済み燃料から出た高レベル放射性廃棄物の処分地のこと。「私達が電気を使うことで出た廃棄物を、子や孫の世代に先送りできませんね。」と山口さん。「原子力は難しい。何度でも聞いて知識を持って判断しましょう」と呼びかけました。

ネットワークグループ通信

フリータイム勉強会（あすか共催）6/27 於：青森市
「東奔西走！秋庭理事長のエネルギーあれこれ」



講師：秋庭悦子氏

参加者 26 名が最新の話題を楽しく学習。暮らしに身近なエネルギーについて考えました。

くらしをみつめる・・・柏桃の輪

冊子「なぜ、柏崎刈羽に原子力発電所が？」発行

おめでとうございます！！

神津カンナと江上佳奈美の エネルギー&クッキング

食とエネルギーについての楽しいトーク。
おいしくて簡単なクッキングの紹介と試食。

開催日：9月4日（木）11時～13時
会場：（渋谷）電力館4F IHクッキングルーム
定員：50名 参加費：無料
申込先：NPO法人 あすかエネルギーフォーラム
中央区日本橋茅場町2-17-6
いづみハイツニュー茅場町406
TEL 03-5640-0777
FAX 03-5640-2636
E-mail info@asca-ef.org